

進化を続ける神奈川の大学 6校

産学連携で高齢者支援システム実用化へ

神奈川工科大学は2018年度に「文部科学省私立大学研究ブランディング事業」に採択されたことを契機に、大学の先進的な研究成果を基として自治体や企業、地域住民と連携して高齢者の「健康」「安心」「生きがい」を多面的にサポートする先進高齢者支援システムの構築を進めている。20年5月にはこれまでの成果を実用化につなげるためのコンソシアムを組織した。地域住民に実験システムを利用して、課題をつぶし込んでいく。

神奈川工科大学

コンソシアムの名称は「盤技術ができた。新型コイ」と意気込む。「先進高齢者支援コンソシアム(KSCIC:K anagawa Smart Care Consortium)」。NTT東日本、厚木商工会議所、さがみはら産業創造センター(相模原市緑区)、神奈川県、神奈川県厚木市と市内の地区自治会などが加わる。さらに実験には神奈川工科大学の学生近隣の高校生も加わる。事務局は神奈川工科大学に置き、小宮一三学長が代表を務める。小宮学長は「2年間の研究で、支援システムの基



小宮 一三学長

た。だれでも簡単に運動機能検査ができる機器「健康aiちゃん」のほか、コミュニケーションをとりつつ体調を検知するロボット、家電などの居住空間で意識することなく高齢者の状態を把握するシステム、高齢者の安全運転支援機能、といった成果が出ており、諸データを統合し分析するAIシステムの研究も進む。看護学科の介護・福祉関連の知見や、生命科学、社会的な考えも反映した、全学的な取り組みに、実用化を果たした。実用化を目指す先進高齢者支援システムは、こうした研究の実用化に向けて、地域の高齢者に実際に使ってもらいたい勝手などの意見

小宮 一三学長

KSCICでは、徹底的にシステムを磨き上げるために一丸で取り組む」と話す小宮学長



実証の拠点となるIoTライフモデルルーム

通信系の高度な技術と高齢者とのコミュニケーションを取るべきか、といった新たな課題を浮き彫りにした。次世代の支援システムが解決すべき課題もつながらる。コンソシアムには他の狙いもある。自治体や地域との連携により活動が活発になれば、神奈川県中央地域が高齢者支援のモデル地区として全国に知られることも夢ではない。「コロナ関連の問題は、外出自粛時にどう高

5 神奈川の大学

地域社会への貢献

急速に進む高齢化社会の課題を解決するため研究ブランディング事業をはじめとし、多様な研究を通して地域社会への貢献に取り組んでいます。産官学連携についてはリエゾンオフィスにお問い合わせください。



工学部
機械工学科
機械工学科 航空宇宙学専攻
電気電子情報工学科
応用化学科

創造工学部
自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

応用バイオ科学部
応用バイオ科学科 応用バイオコース
応用バイオ科学科 生命科学コース

情報学部
情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

健康医療科学部※1
看護学科(看護師・保健師養成課程)
管理栄養学科※2(管理栄養士養成課程)
臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

※1 学部・学科改組再編に伴う新学部設置を計画しています。設置計画は予定であり内容は変更となる場合があります。 ※2 栄養生命科学科は管理栄養学科に名称を変更します。